



地域貢献意識を高めるためにも「地域連携カリキュラム」の見直しを

本市では、昨年12月にコミスクの取組に関するアンケートを行いました。その中で、課題として浮かび上がってきたのが、児童生徒の地域貢献活動意識の低さです。「地域をよくするために何ができるかを考えることがありますか」という質問に対し、肯定的に回答した小学6年生は51.5%、中学3年生は55.4%と他項目に比べると数値は低めでした。

これからの学校・地域連携は、「学校を核とした地域づくり」というキーワードが示すように地域づくりへも貢献していく姿勢が大切です。

現在、学校では、地域連携カリキュラムに沿って地域の人・物・ことを活用した学習を行っています。児童生徒の地域貢献意識を高揚するためには、この取組をさらに高いステージに引き上げる取組が必要です。

そこで、今後、是非とも取り組みたいことは、小中学校の「総合的な学習の時間」のカリキュラムへの「地域貢献学習」の位置付けです。総合的な学習の時間は、社会に開かれた教育課程の基幹となる学習で、各学年では地域教材を活かした多様な学習を展開しています。この時間の最終的な単元として、それまでの地域学習で学んだことを活かし、今、自分が地域のためにできることを考え、実行する学習を設定したいものです。小中の地域学習の集大成として、小学6年生、中学3年生の単元として設定するのが望ましいでしょう。

下の表は、ある小学校でのカリキュラム例です。生活科から学んできた地域学習で感じた地域の課題を、6年生で一旦ふり返り、「まちづくり」について考える単元を設定しています。

目標を実現するための本校の探求課題			
3年	4年	5年	6年
地域（40時間） 大好き○○	福祉（30時間） 人に優しいまち○○	自然・防災（30時間） 安心・安全なまち○○	まちづくり（30時間） ふれあいのまち○○
○○地域の様子（自然・歴史・伝統、地域活動）とそれを守る人々	○○地域に住む高齢者や障害者、乳幼児とそれを支える活動	○○の自然災害から生活を守る活動	笑顔あふれるまちづくりを目指す○○地域活動
○○地域の様子の理解を深め、地域のよさやそれを守り継承する地域の人々の願いについて考える。	○○地域に住む高齢者や障害者、乳幼児等についての理解を深め、誰もが幸せに暮らせる住みよい暮らしづくりに関わる。	○○地域の自然災害の特徴について理解を深め、災害から身を守る行動について考える。	○○地域の地域活動の理解を深めるとともに、自分たちでできることを考え実行する。
・自然環境の特徴・よさ ・歴史・伝統・文化財と人々の願い ・活発な地域活動（祭り・行事）への参加	・地域の高齢者・障害者・独居老人・福祉施設と福祉活動 ・地域の子育て支援活動（乳幼児） ・身近なボランティア活動への参加	・○○川の自然環境 ・○○の自然災害の特徴 ・地域の災害（洪水・土砂災害・地震）から身を守る行動	・○○地区まちづくり計画 ・地域づくり協議会の活動 ・地域貢献活動の実施

中学校においても、小学校での学びをもとに、キャリア教育としてさらに深め、3学年に、再度、地域貢献を考える学びを設定します。

年度末を控え、各学校で地域連携カリキュラムの見直しを進めているこの時期は、今後のコミスクの取組を方向付ける大変重要な時期です。先のアンケートでは、「地域連携カリキュラムの検討に関わった」と回答した教員は、小中学校ともに50%に満たないという結果が出ています。全職員と学校運営協議会で、総合的な学習の時間を中心とした地域連携カリキュラムの見直しをお願いします。

コミュニティ・スクールに関する活動情報をお寄せください。HP 更新に活用します。
 宇部市教育委員会コミュニティスクール推進課
 Tel 0836-37-2780 E-mail : ed-shakai@city.ube.yamaguchi.jp